

# 総力をあげて 佐倉支部結成へ

## 1979年度 組織部長会議

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

一九七九年度動労千葉組織部長会議は2月12、13日、千葉市・県職員会館で開催され、一年余にわたる熾烈な組織争闘戦の勝利の経過を総括し、当面する組織課題の具体的取り組みについての意志統一がかけとられた。

### 決定的な動労千葉決起の意義

― 関川委員長あいさつ ―

会議は動労千葉・林執行委員の開会のあいさつで始まり、同執行委員を座長に進められた。まず関川委員長より大要次のようなあいさつが行われた。「『西の三里塚』と言われる日本原闘争の現地集會に参加してきた。日本原でも動労「本部」革マル反動分子の策動により集會が二ヶ所に分けて行われている状況があるが、部落解放同盟や国労米子地本の労働者などが支部旗、分会旗をおし立てて参加し、『動労のやり方はひどい』『セクト的だ』という発言を公然と行っていた。『本部』革マル反動分子の孤立は至るところで進行している。全金本山や電通問題に端的に示されているように、労働組合が統制権をもって戦闘的闘いをつぶしてゆくという状況の中で、動労千葉が決起の精神に踏まえて闘い抜くことの意義は決定的である。」

### 今こそ決断のとき

― 「佐倉支部結成」に討論集中 ―

続いて、布施組織部長より方針提起が約二時間にわたって行われ討論に入った。

第一日目の討論は「佐倉・銚子支部の結成」問題に集中し、会議予定時間を一時間も超過する活発な討論が展開された。

その中で各支部から出された主な主張点は主要次の二点に集約できる。

第一に、「本部の佐倉、銚子に対する取り組みは甘すぎる。いろいろ事情はあるにしても動労千葉結成以来一年近く経過し、組合員の大半が動労千葉でやろうとしていることがはっきりしているのに、もっと毅然とした対応をすべきだった。ここまできたら一〇〇%ということを考えず敵対する者がいるならいるで大衆的にはつきりさせるべきだ。」

第二に、「第一次、第二次オルグに参加して、痛切に感じたことは佐倉の組合員が何も知らされていないということだ。この間、佐倉支部の代表

も参加して決定し、他の支部では支部内での討論を通し理解されていることが全く知らされていないまま、商業新聞などで報道されることが鵜呑みにされている。しかし、そういう中でも『本部』の言うことは全くと言ってよいほど信用されていないのであり、現在行っているオルグをもっと厳しく、何回も繰り返して行えば必ず支部結成は成功する。」

これに対し、本部側からは、次のような答弁が行われ全体で確認された。

- ① 動労千葉は排除の論理を否定し、労働組合にはいろいろな考え方のあることを前提に、粘り強く取り組んできた。
- ② その結果、佐倉支部では新執行部が確立され、団結署名をやるまで前進した。地上勤務者はほぼ終り乗務員の団結署名をもちとることが当面する課題となっており、佐倉支部執行部の努力を全体で助け合うという立場から、現在、第一次、第二次オルグを実施している。
- ③ これまでの経過が「生ぬるい」という批判はわかるが労働運動の原則を守るということで理解してほしい。しかし、他支部の要請も含め動労千葉としても、今こそ決断のときであると考えている。

2、3月にかけて全支部の総力をあげた取り組みを要請する。

### 「会館は動労千葉のもの」

― 田村弁護士講演 ―

第二日目は当面する法廷闘争、とりわけ「会館問題」について田村弁護士からの講演と討論が1時間半にわたって行われ「会館は動労千葉のもの」であることがはっきりと解明されていた。

続いて、当面する「組織・強化拡大」「35万人体制攻撃に職場から反撃する第二次反合・運転保安闘争」「80春闘」「三里塚・ジェット」「動労大改革、戦闘的労働運動の再生」等の具体的取り組みについての討論と意志統一が行われ二日間にわたる会議を終了していった。